



やすぎ 市議会だより

vol.

69

2022. 1

12月定例会議特集

主な掲載内容

- ◆本会議で審議された議案等……P 2
- ◆常任委員会委員長報告要旨……P 3
- ◆島根原子力発電所視察報告……P 4
- ◆一般質問要旨……P 4～P 11
- ◆常任委員会現地視察報告……P 12

編集・発行／安来市議会広報広聴委員会

TEL 23-3125

FAX 23-3153

撮影：原瀬清正議員

令和3年12月定例会議（令和3年12月1日～15日）議案等の審議結果

12月定例会議は、予算案10件、条例6件、その他2件、同意2件、報告1件、以上21件について審議を行い、全て可決・同意等いたしました。

■賛否の分かれた議案

賛成…○、反対…×、欠席…欠、除斥…斥、退席…退、棄権…棄

提出者	番 号	件 名	議決結果	議席番号																	
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
				内田 卓実	湯浅 正志	三原 哲郎	清水 保生	福井加代子	岡本早智雄	原瀬 清正	飯橋 由久	岩崎 勉	三島 静夫	向田 聡	澤田 秀夫	佐々木厚子	作野 幸憲	石倉 刻夷	足立 喜信	葉田 茂美	永田 巳好
市長	議第16号	安来市職員の給与に関する条例及び安来市病院事業管理者の給与等に関する条例の一部を改正する条例制定について	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	
	議第18号	令和3年度安来市一般会計補正予算（第10号）	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	
	議第19号	令和3年度安来市国民健康保険事業特別会計補正予算（第3号）	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	
	議第20号	令和3年度安来市介護保険事業特別会計補正予算（第3号）	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	
	議第21号	令和3年度安来市生活排水処理事業特別会計補正予算（第2号）	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	

※議員定数18人 議長は採決に加わらない

■全会一致で可決、認定等した議案

提出者	番 号	件 名
市長	議第4号	安来市交流センター条例の一部を改正する条例制定について
	議第5号	安来市過疎地域における固定資産税の課税免除に関する条例制定について
	議第6号	安来市手数料条例の一部を改正する条例制定について
	議第7号	安来市国民健康保険条例の一部を改正する条例制定について
	議第8号	安来市過疎地域持続的発展計画を定めることについて
	議第9号	町の区域の変更及び字の区域の廃止について
	議第10号	令和3年度安来市一般会計補正予算（第9号）
	議第11号	令和3年度安来市国民健康保険事業特別会計補正予算（第2号）

提出者	番 号	件 名
市長	議第12号	令和3年度安来市後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第2号）
	議第13号	令和3年度安来市介護保険事業特別会計補正予算（第2号）
	議第14号	令和3年度安来市水道事業会計補正予算（第2号）
	議第15号	安来市長、副市長及び教育長の諸給与条例の一部を改正する条例制定について
	議第17号	令和3年度安来市一般会計補正予算（第8号）
	同第3号	安来市監査委員の選任について
	同第4号	母里財産区管理会財産区管理委員の選任について

■報告事項

提出者	番 号	件 名
市長	報第3号	議会の委任による専決処分の報告について



第100回安来市議会定例会 12月定例会議委員長報告(要旨)

総務企画委員会

委員長 岩崎 勉

議第4号、8号は全会一致で執行部提出原案のとおり可決すべきものと決した。議第4号では、委員から現在の利用状況や今後の使用内容の確認はあったが、特に異論はなく、採決では、全会一致で執行部提出原案のとおり可決すべきものと決した。議第8号では、委員より「前回の計画も5年間の計画とし、一部変更等行いながら進めてこられたが、今回も同様か」との質問に対し、執行部からは、「必要に応じ見直しを行い、その都度議会へご説明させていただきたい」との答弁があった。

文教福祉委員会

委員長 飯橋 由久

議第5号、7号はいずれも全会一致で執行部提出原案のとおり可決すべきものと決した。いずれも変更の理由や詳細等の確認はあったが、特に異論はなく、採決の結果、全会一致で執行部提出原案のとおり可決すべきものと決した。

地域振興委員会

委員長 岡本 早智雄

議第6号、9号はいずれも全会一致で執行部提出原案どおり可決すべきものと決した。

議第6号について委員からの「長期優良住宅は、安来市にどのくらいあるか。また新築・増築の内訳はどのようなになっているか」という質疑に対し、執行部からは「昨年度実績で、長期優良住宅の認定件数は11件、内訳としては、ほぼ新築であった」と答弁があった。

議第9号では、委員から「この区画整理により、小字が不要となるため廃止するという考え方なのか。また今後、土地区画整理や圃場整備が始まる中において、その都度、このようなことが起こることか」との質疑に対し、執行部からは「その通りである。土地改良法により、区画整理事業をすることで、字を廃止できる」と答弁があった。

予算決算委員会

委員長 原瀬 清正

議第10号2款総務費の「総合行政システム移行データ作成業務」につ

いて、委員より「移行データ抽出に9千万円位かかるという説明があった。現行の日立システムズでもこれ位かかるのか。また、ケイズの方がプロポーザルとして費用対効果も含めて良くなるという判断だったのか」との質問に対し、執行部からは「プロポーザルについては、本庁内で審査委員会を設けて審査を行った結果、株式会社ケイズに決定した。企画点の審査項目で判断し、価格点については、導入時の費用とランニングコスト双方の観点から、トータル的な評価としてケイズとなった。特に評価をしたのは、今後のシステム標準化や自治体DXなどの将来的な提案と、近隣自治体で採用されているシステムを導入することにより、将来的に連携して使用することで経費節減を図れるのではないかとということも勘案して決定した。データ抽出の費用については、システムの切り替えをされた近隣自治体の実績を聞き、勘案して計上した」との答弁があった。また委員より「総合的な部分で価格なども含めてと説明があったが、その部分が日立システムズから移行した時とどれくらい差額があるかわからないが、現時点ではそういう評価をしたということではないか」との質問に対し、執行部からは「価格点については、移行経費を審査基

準に含めておらず、相対的にはシステム利用料などのランニング的な部分がケイズの方が安く、長い目で見ればそういった経費も十分回収できるのではないかと判断が多かった」との答弁があった。同じく、2款総務費の「小型除雪機購入費支援事業」について、委員より、「今回の見込み額は、あくまでも見込みなのか、或いは、すでに予約などがあり、申請を待つてゐる方がいる状況なのか」との質問に対し、執行部からは「見込み額については、実際に問い合わせもあり、その状況を踏まえて想定した」との答弁があった。また委員より、「今年度、更に申込みが増えれば、再度補正されるのか」との質問に対し、執行部からは、「今回の補正を行った上で、まだ足りないという状況になれば検討する」との答弁があった。続いて、4款衛生費の「新型コロナウイルスワクチン接種事業」について、委員より「3回目接種は、準備が整えば、前倒しで6ヶ月以上の方からとする考えはないか」との質問に対し、執行部からは「医師会の先生方とも調整を行いながら、速やかに実施できるようにしたい」との答弁があった。採決では、議第10号、11号、12号、13号、14号、すべて全会一致で執行部提出原案の通り、可決すべきものと決した。

島根原子力発電所を視察

11月25日に議長を含む16名の議員で、島根原発2号機の安全対策を確認するための視察を行った。

構内の施設を見学し中国電力より新規制基準に基づく安全対策の説明を受け、質疑を行う中で安全への取り組みに引き続き新たな知見を踏まえた安全対策の改善を行って頂きたいとの要望が多くあった。

今後、再稼働に関しては議会においても慎重に議論を行い、総合的に判断を行っていききたい。

島根原子力発電対策調査特別委員会
委員長 三島 静夫



12月定例会議

一般質問要旨

新年度予算編成方針について

質問 令和4年度の予算編成方針について伺う。

答弁 第2次総合計画と、まち・ひと・しごと創生総合戦略を基本とし、人口減少対策と市の創生を目的とした施策に取り組み、中期財政計画を踏まえ、既成概念にとらわれない編成を行う。公共施設利活用推進会議で、施設ごとの管理計画の見直しも行い、財政計画に盛り込み実行する考えである。

質問 「あいサポート運動」の推進について伺う。

答弁 今年3月末時点、障がい者が困っておられる場面で、ちょっとした手助けを行うあいサポート運動の研修を終了した県内のサポーターは5万4,476人、研修の講師としての役割を担うメッセンジャーの県内登録数は、1,326人、安来



誠和クラブ
石倉 刻夷

市の登録数は、39人である。市としても社会福祉協議会と連携し活動の周知と登録者数の拡大に向け協力していく。

質問 終活支援条例の制定について伺う。

答弁 県内で条例制定は無い。介護や人生最後の医療・ケア等を話し合う「人生会議・アドバンス・ケア・プランニング」の取り組みが4市において実施されており、安来市を含む2市で実施に向けた協議が行われている。安来市では終活支援として、第一生命と包括連携協定を利用したエンディングノートの作成を準備中である。

質問 月山富田城跡の広報と音声ガイドについて伺う。

答弁 広瀬観光案内所での案内やパンフレット配架のほか、雑誌やテレビ番組での紹介、SNSを活用した情報拡散などによりPR活動を展開している。音声ガイドは、繰り返し耳で「聞く」ことができ、観光の満足感を高めると思う。近年は、スマートフォンで聞くタイプが主流となっている。市内の他の観光地でも導入が可能か通信状況、導入費用など検証を行っている。



政進クラブ
内田 卓実

スマート農業について

質問 現在の取組状況について伺う。

答弁 今年度においてはGPSを活用した基地局の設置とトラクターの自動操舵装置を6組織へ導入する予定である。

質問 今後の展望について伺う。

答弁 農事組合法人並びに今後設立される法人営農組織に対して、県営での農山漁村振興交付金事業において各組織のニーズ調査を行い、計画策定事業を実施する予定である。ICTを活用したスマート農業に必要な情報通信環境の整備を進めていく。

放課後児童クラブについて

質問 市内の開設状況について伺う。

答弁 現在、本市においては16の運営団体により17の施設において放課後に児童の預かりを行っている。

質問 どのような場所や施設で開設されているのか伺う。

答弁 運営には民設民営と公設民営がある。民設民営であればその団体が所有される施設での運営となる。

質問 どういった条件を整えれば開設できるのか伺う。

答弁 運営はクラブの活動を適正に行うことができるかと認められる団体に委託することが必要となる。また、必要な広さを備えた施設の確保も必要である。そのほか、子ども・子育て支援交付金の対象となる主要条件としては、開所日数が年間250日以上となること、開所時間は平日では3時間以上、学校休業日は8時間以上であること、職員は支援員の資格を持つ者を含め、開所時には最低2名が必要であることなどがある。

質問 放課後児童クラブの課題について伺う。

答弁 子どもの育成支援をする支援員や事務を担う人材の確保が挙げられる。またその人材を調整して運営を行っていく運営主体の安定性も求められる。

一方で、働く方の定年の延長などにより、家庭で子どもの面倒を見る人がいないなどを理由にクラブを必要とされる方も増えるのではないかと考えたことも想定され、ニーズの見極めも重要である。



政進クラブ
飯橋 由久

withコロナ下での

社会経済活動の活性化

質問 昨年来より中止や規模の大幅縮小となっている安来市のイベントについて計画中のものがあれば伺う。

答弁 現在の感染状況は、落ち着きを取り戻しているところであり、来年春季に開催時期を迎える「さくら祭り」や「チューリップ祭り」については、県の指針等に基づき、開催に向けて実行委員会等の実施団体と対応を協議しているところである。

しかしながら、開催にあたっては新しい生活様式に配慮していかなければならず、これまでと同形態の実施では難しい面があることや、様々な工夫をしていかなければならない。

質問 観光業や飲食業をはじめとした経済活性化への具体的な取り組みについて伺う。

答弁 11月に全市民へお送りした「オールやすぎ食べ・乗りクーポン」により、飲食店・タクシー事業者の利用を促進しているところであり、同時に、安心して飲食店をご利用いただくため、島根県が進めている「島根県新型コロナウイルス対策認証店」の認証取得を推進している。

質問 「島根県新型コロナウイルス対策認証店」取得について本市の考えは。

答弁 飲食店の皆様には、これまでも店舗内の感染防止対策を講じていただいているが、本制度の認証基準は、より確実に感染リスクの低減が期待できるものであると考えている。

島根県では認証取得に要した経費の2/3を、20万円を上限に助成する制度がある。安来市としても本認証制度を推進するため、残り1/3を、10万円を上限に助成する制度を実施していることから、事業者は実質消費税分の負担のみで取り組むことが可能である。

これらを利用して、飲食業におけるウィズコロナ、アフターコロナの営業スタイルを構築していただくためにも是非、認証取得を目指していただきたく、安来市として推進しているところである。



市民クラブ
岡本 早智雄

中山間地域振興について

質問 中山間地域における人口減少は、安来市のみならず全国的問題で難しいことは承知している。「オール安来」で安来市を後世に残していくために中山間地域問題は避けては通れない。今後の中山間地域振興への基本的な考え方について市長に伺う。

答弁 国勢調査で5年前と比較した人口増減率が、旧広瀬町ではマイナス10・1%、旧伯太町ではマイナス8%で軒並みの減少で、高齢化率は4割を超えており、さらなる施策が急務であると強く感じている。本定例会議において、新しい安来市過疎地域持続的発展計画を上程している。持続的発展施策を推進することで中山間地域の振興を図って行きたい。

特に中山間地域のすばらしい、今ある自然、そして文化や豊かな暮らし

しということに着目して、将来へわたって維持していくためには人材の育成も大切であると思っている。次の世代に必ず引き継がなければならぬため、中山間地域対策に全力で取り組む。

質問 中山間地域における耕作放棄地は年々増加し深刻な問題となっている一方で、大雨等による災害に関して、管理出来ている農地による保水機能が防災・減災の効果があると考えられており、農業問題にとどまらず、市民の生命・財産を守るためにも改善すべき問題となっている。

そこで、健全な農地の復活への問題解決と合わせて、災害防止の観点からどのような対策を講じられるのか考えを伺う。

答弁 2015農林業センサスで市の耕作放棄地面積が59ヘクタールに上り、耕作放棄地が市内全域に顕在している。ご指摘のとおり農地は多面的機能を有しており、耕作放棄地の増加は農地がもたらす様々な機能に悪影響となることは間違いない。こういった中、防災・減災のための国土強靱化等、幅広く問題解決できる支援策並びに予算確保を島根県市長会より国に対して継続的に要望していく。



市民クラブ
澤田 秀夫

投票率の向上に向けて

質問 投票しやすい環境づくりのために前回の選挙から改善された点は。

答弁 入場券の裏面に宣誓書欄を印刷し、自宅等であらかじめ記入してから期日前投票所に来場すること受付時間の短縮並びにコロナ禍においても投票しやすい環境に努めた。市議選の地区別の期日前投票率は。

答弁 期日前投票の投票率は、安来会場が13・18%、広瀬会場が3・66%、伯太会場が5・03%であり、3投票所全体では、前回より約2%上昇し21・87%であった。

質問 期日前投票所を増設する場合、投票システムをつなぐ通信回線費用と維持管理費用は。

答弁 地域イントラネットの回線に接続していない施設においては、期日前投票所を設置する前に光ケーブル網を敷設する必要がある。その初期費用は使用する施設の位置、光

ケーブル網の空き状況等によって幅があり、100万円から500万円程度と推計される。また、会場で使用する電算機器購入費用50万円程度が別途必要となる。

維持管理費用は、一施設につき拠点として利用する費用が1回あたり6万3,000円程度、回線使用料が、月あたり1万6,000円程度と見込まれる。

尚、交流センター等、すでに地域イントラネットに接続している施設では、電算機器の購入費用のみで維持管理費用はかからない。

安定的な水道水のために

質問 安来市の水道管の全体管路は約630kmあるが、このうち法定耐用年数40年を超える「経年管」の長さ

答弁 令和2年度末における法定耐用年数40年を経過した管路は約57kmである。

質問 今後の「経年管」の更新計画は。

答弁 平成30年4月に策定した安来市水道事業ビジョンに基づき令和10年までを目標年次に設定し、基幹管路等の緊急性の高いものから順次計画的に行い、これに併せ耐震化も進めている。

今後も安心安全な水道水の安定供給に努めていく。



政進クラブ
湯浅 正志

子育て支援について

質問 これまでの支援策の成果と、今後に向けた取り組みと課題について伺う。

答弁 安来市では、他分野にわたる数多くの支援策を実施し、それぞれの事業において成果はあるものと考えている。令和2年度に母子健康包括支援センター「びっこりー」を設置し、妊娠期から子育て期にわたる総合的な相談や支援を行っている。子育て世帯の経済的支援としては、中学生までの医療費無償化、一定所得以下の保育料の軽減、就学支援などを実施している。

今後は、産後ケア事業の充実を図りたい。「子ども家庭総合支援拠点」として、引き続き、支援をしていく。課題としては、少子化に伴う保育の提供体制について検討をしていく必要がある。

インボイス制度について

質問 制度の開始により行政、市

民の皆様にも与える影響を伺う。

答弁 令和5年10月1日から制度が開始となり、それまでに民間の製造業者・卸売業者等は体制を整える必要がある。市役所内では消費税の処理に特化したシステム改修経費は発生しないものと考えている。

脱炭素社会の実現について

質問 「第2次安来市地球温暖化対策実行計画」の進捗状況を伺う。

答弁 計画を推進するため、「安来市地球温暖化対策地域協議会」を設置し協議や活動を行っている。市民・事業所・行政の協働の取り組みを推進し、脱炭素社会の実現に向けて進めて行く。

安来市の冬季対応について

質問 除雪計画と異常低温予報時での対応について伺う。

答弁 除雪計画に基づき、積雪量を目安に原則、市民生活に欠くことの出来ない道路及び通学路の交通の確保を優先し、除雪作業を開始する。また、異常低温時は、市道では事故発生の危険度が高い路線へ凍結防止剤の設置および散布を行っている。水道事業では、凍結防止対策の周知を行うと共に、農林事業では、被害防止のため、早期の対応を周知することとしている。

だれもが安心して暮らせる街づくりについて

高齢者の移動手段について

質問 高齢者の運転免許証返納後の移動手段に対し、市として支援策はあるか。

答弁 イエローバスの減免証明書とフリー定期券一年分の交付をしている。

質問 イエローバスはバス停まで遠く利用しづらいという声もある。他に市民のニーズに合った施策はないか。

答弁 移動困難な方に対する移動サービスの提供としてデマンド交通への支援を行っている。移動支援と地域活動支援を行う事で住みやすい地域づくりに貢献できる事業となっており、中山間地域に適した事業と考えている。

高齢者のごみ出し・除雪について

質問 高齢者でごみ出しや雪かきが困難になってきた人への支援策はあるか。



公明党
佐々木 厚子

答弁 ごみ出しは、ホームヘルパー、また自治会等に支援協力をいただいている。伯太地域では福祉部局と連携し、「いきいきの郷はくた」に設けられている集積場までホームヘルパーが訪問先で出たごみを持ち帰るようにしている。除雪についても、自治会や自主防災組織など、皆さまの協力をいただいている。

市としても事業所等の情報収集を行い、必要に応じて情報提供に努める。

五歳児健診実施について

質問 五歳児健診は必要と考えるが、安来市として実施する考えはないか。

答弁 安来市では就学前の児童に対する発達支援を行うために保育を通じた相談や個別支援を行っており、五歳児相談会等を通じ、就学後も適切に支援につながる体制をとっているため、五歳児健診を行う考えはない。

発達障がい児の支援体制について

質問 松江市に幼稚園から青年期以降の相談にも対応し、切れ目のない支援に取り組んでいる「エスコ」という発達教育支援センターがある。安来市にも必要と考えるがどうか。

答弁 安来市においてはライフステージに応じて適切な相談等の対応ができる体制をとっている。現時点では設置については考えていない。



市民クラブ
原瀬 清正

定住支援について

質問 マイホーム取得補助及び固定資産税減免措置制度等、今後の定住支援に対する考え方を伺う。

答弁 ライフステージの転換点における転出が多い傾向にあることから、市内からの人の流出を抑制するための施策を強化する必要があると考える。こうした観点で来年度からは新たな施策に取り組めるよう検討している。

中海ふれあい公園について

質問 利用者の方々から「熱中症対策として木陰や屋根のある待機場所を作ってもらえないか」との声を多く伺っている。公園内における熱中症予防対策についての考えを伺う。

答弁 施設管理者として考えられる対策は、「日陰をつくる」「水分補給のための施設を設ける」などが考えられる。日陰については、東エリ

ア中央部にある東屋や、木陰が出来る樹木を設けている。水分補給については、自動販売機を2カ所に設置し水分補給の一助となるようにしている。新たな施設整備ということにはならないが、多目的広場には寄贈された樹木があり、成長すると新たな木陰を形成するものと考えている。

質問 中海ふれあい公園の利便性向上のひとつとして、ホームページから予約状況の確認や予約受付が可能にならないのか伺う。

答弁 現状での公園利用形態が多岐に渡っていることや管理の状況を踏まえる限りでは、ホームページからの予約・申請は難しい。中海ふれあい公園に限らず、インターネットを利用した公共施設の利用予約については、検討していくべき課題と考えている。

質問 公園周辺、例えば安来駅前から中海ふれあい公園までの間の中海一周コースになっている部分の道路整備について伺う。

答弁 国、県、中海沿岸自治体で構成される中海会議で、中海周遊サイクリングの推進が中海の活用策のひとつとされている。自転車の安全通行確保の観点からも市道の路面維持を図っていく。



政進クラブ
岩崎 勉

除雪対策と定住政策について

質問 気象庁の発表によれば、今年の冬は日本海側で雪が多くなる可能性があるとのこと。本市の除雪に対する基本的な考え方を伺う。

答弁 安来市建設業事業協同組合をはじめ5つの団体・組織に委託している。平常除雪として、広瀬地区、伯太地区、安来地区の幹線道路を対象として、積雪量15cmを目安に、委託団体の判断で除雪を開始することとしている。また、平野部においても30cmを越える積雪が予想される場合は、安来市の判断で豪雪時除雪体制とする。

質問 小型除雪機購入費支援事業の予算の執行状況と、今後の予算措置について伺う。

答弁 交付決定率は100%となっている。今年度は、本議会で補正予算を計上し、予算を増額して対応したい。また、毎年度、必要に応じて、

随時内容を見直しながら、予算計上していきたいと考えている。

質問 本市の定住政策を進めるうえで、JR安来駅から徒歩で十数分の位置にある、和田南地区の分譲促進は大変重要であると考えている。和田南地区内にバスの停留所と雨風を防ぐ上物を設置し、スクールバスを乗り入れる考えの有無について伺う。

答弁 現地確認を行い、バスの運行上支障がないと判断した際にはバス停を設置し、スクールバスを運行したいと考えている。

質問 免許証を返納されたり、年金暮らしで自家用自動車を所有することが出来ない市民の皆さんが、普段の買い物や病院への交通手段に困っているとお話を多く聴く。一日に何回か、和田団地の市営住宅辺りまでイエローバスを乗り入れて、地域住民のサービス向上につなげる考えの有無について伺う。

答弁 過去の実証実験の結果等から、イエローバスでの運行は考えていない。現在、策定中の安来市地域公共交通計画のなかで、今後の交通政策においてどのような事が出来るのか検討する。



同 心
清水 保生

少子高齢化対策と

地域医療の確保について

質問 有害鳥獣捕獲補助金の予算措置の考え方、執行状況について伺う。

答弁 毎年度、捕獲実績に応じて補正予算を組みながら全件に対して交付している。これまで三か月分をまとめて交付していたが、今年度から毎月交付に事務処理を見直した。

質問 文部科学省の「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」では、学級数が少ないことによる学校運営上の課題や複式学級の課題等について指摘されているが、市の見解と具体的検討状況を伺う。

答弁 児童生徒の教育条件の改善の観点を中心に、教育の目的や目標をよりよく実現するために検討を行う必要がある。教育推進会議の提言を受け、学校と地域の連携の重要性も考慮しながら、令和の時代に生き

る子どもたちの「育ち」「学び」についての視点から、望ましい教育環境を整えることができるよう検討する。

質問 市立病院の経営改善の取り組みにおいては、赤字の面だけがクローズアップされているように思うが、市民が求める医療の確保とこの赤字の問題をどう考えるべきか見解を伺う。

答弁 市立病院は、公立病院としてへき地における医療や、救急をはじめとする不採算部門に関わる医療を担っているが、患者数の減少が続いており、基準外の繰入れを受けながら運営を行っている現状である。この状況を真摯に受け止め、経営の健全化に向けて取り組みながら、地域医療の確保に努めなければならないと考える。

質問 市立病院経営改革検討の進捗状況について伺う。

答弁 安来市全体の医療体制のあり方や公立病院の担う役割、機能等について検討する必要がある。総務省「経営・財務マネジメント強化事業」のアドバイザー登録者からの助言をいただきながら、委員会開催に向けて準備を進めている。また、本年度に新たな病院改革プランを策定し、継続して改革に取り組んでいく。



誠和クラブ
三島 静夫

ジェンダーレス制服について

質問 制服を使用している学校数と、その中でジェンダーレス制服に取り組んでいる、または計画されている学校数を伺う。

答弁 制服を使用しているのは、中学校は5校、小学校では17校中12校である。制服の選択制を導入しているのは今年度2校、来年度計画あるいは検討するとしているのは7校である。

質問 「性的指向及び性自認」を理由とする偏見や差別への取り組みに関して市内の小中学校では共通の認識をしているのか伺う。

答弁 教職員の理解を深め、各校における人権教育校内研修において、性の多様性をテーマとした研修を実施している。また、島根県教育委員会が発行しているリーフレットを使つての研修を実施するよう要請をしており、性の多様性が認められる学校づくりについて認識を共有していると考えている。

産後ケアについて

質問 産後ケア事業はどのような目的を持って、どのようなことを行っているのか伺う。

答弁 安心して子どもを産み育てる支援体制を確保することを目的に産後ケア事業を行っている。

安来市では、助産師が家庭訪問する訪問型と、日帰りでの通所型の2つがあり、母子の身体的ケアや母親の心理的ケア、沐浴などの育児指導を行っている。

市立病院改革の現状について

質問 市立病院は建替えるのか改修されるのか伺う。

答弁 施設整備については、今後のあり方についての方針と、それに伴う必要な機能や規模、また、市の財政状況などを踏まえて判断したいと考えている。

質問 市立病院を介護医療院にするという考えに変わりはなく伺う。

答弁 現時点では基本的に「医療」を担っていくべきであり、「介護」とは棲み分けが必要であると考えている。現在、在宅医療の提供体制が整い、訪問診療・訪問看護・訪問リハビリが開始されたので、これらが充実するように進める。



政進クラブ
福井 加代子

子どもの貧困、

子ども食堂について

質問 このコロナ禍、安来市の子どもの貧困の現状を伺う。

答弁 子どもの将来がその生まれ育った環境に左右されないように全ての子ども達が夢と希望を持って生きていける社会の実現を目指し、国や県と連携した取り組みを進めなければならぬ。そうした中で子ども食堂は子どもの貧困対策や、地域交流の拠点として重要な役割を果たしている。子どもたちの居場所づくり、学習支援も実施されている。市としても関係機関と共に協力していく。

7月、8月の災害の被害状況と対策について

質問 災害の被害状況について伺う。

答弁 公共土木災害は河川、道路を合わせ約300箇所の被災を確認し、補正後の災害復旧予算額は5億690万

円となっている。現時点で、予算に対し約48%の執行率となっている。応急工事が必要な箇所を優先して対応しているが、まだ未復旧箇所が残っている。一方、農林災害についての被害額は総額2億120万円を見込み、事業費ベースで約50%、発注済みである。早期の復旧に努めたい。

質問 その災害時に高齢者等の避難発令があったが、避難状況はどうだったか伺う。

答弁 7月は57世帯107名、8月は8世帯12名、このうち70才以上の方は全体の4割で災害時要援護者台帳に登録されている方は7月、8月合わせて20名であった。

質問 各交流センターが避難所に指定された。お子さん連れのお母さんから、タオルケット等何もなかったと伺ったが、今回の災害で反省すべき点、そして今後の防災対策をどの様に展開されるのか伺う。

答弁 災害対応では住民への情報発信や被害状況の把握などで課題があった。避難所運営でも生活物資の提供に時間を要したことから、既に各交流センターに非常食や飲料水、ダンボールベットや間仕切りなどの生活物資を備蓄した。

安心して住み続けられる

安来市に



日本共産党
向田 聡

島根原発2号機再稼働問題を

質問 住民説明会では中電主催が1回、県・市共催でも1回だった。声を聞く回数としては少ないのではないかと。追加実施の考えはないか伺う。

答弁 県・市の説明会には約70名の方が参加された。その他、ライブ中継や10回の再放送を行った。県のホームページやしまねっこチャンネルでの視聴が可能となっている。市としては、追加の説明会についての開催予定はないが、今後、広域避難計画についての継続的な住民周知は必要と考えている。

質問 重大事故が起こった場合の避難について、市民の不安は大きい。具体的な避難マップの作成や各家庭への配布などが必要ではないか。また、広域避難となった場合、受け入れ先の自治体の態勢はできているのか。

答弁 この度、「島根地域の緊急

時対応」が国で承認されたことにより、新たな資料を作成し改めて配布することを検討していきたいと考えている。また、安来市の受け入れ先の自治体は14市町村あるが、13市町村で整備がされており、未整備自治体も今年度中には整備の予定となっている。

水害対策について

質問 今年の夏の豪雨により市内各地で大きな被害が発生した。その中の一つである新興住宅地、東飯島町の冠水、浸水の問題で、若い世代が安心して住み続けられるようにするために、今後の備えや排水についての応急措置、抜本的措置が必要と考えるがいかがか。

答弁 東飯島地区の路面冠水については、この7月、8月で3度発生した。これに対して、早急な対策が必要であると考えており、この地区の内水対策については、地元の方々にも協力いただき、排水路の系統や現地状況などの聞き取り調査を行っている。今後、現地測量などを行い、対策の検討を進め、できることから改善を図っていきたい。

その他の質問事項

○子ども・若者の声を生かす市政について



誠和クラブ
作野 幸憲

スマート&デジタル

質問 果樹や野菜栽培などの水田農業以外も含め、市の「スマート農業」の今後の方針は。

答弁 水田農業において、年度末にはトラクターでの自動操舵装置の試運転計画がある。

施設園芸においては、センサーにより計測、記録をしてデータ化し、かん水作業や温度管理を中心に、不安定な生産状況の改善を図る技術や負荷の高い労働からの軽減を図る技術の導入が、新規就農者を中心に始まっている。

また、果樹の分野では負荷の高い手上げ作業等の労力軽減対策として、アシストスーツの導入が、安来市新型コロナウイルス感染症対策農業収益向上事業により進んでいる。

引き続き、関係機関と連携して効果や技術の検証を行いながら推進する。

質問 中山間地域で農業を続けていく上で、ラジコン草刈り機などの積極的な導入は必須になると考えるが、市のお考えは。

答弁 昨年度は、島根県の新型コロナウイルス感染症対策事業を活用して、ラジコン除草機を導入された農家もあったが、そのほかでは中山間地域等直接支払交付金を活用して機器を導入することが可能である。

引き続き活用できる支援策や研修会等の情報を提供していきたいと思う。

質問 来年度教育現場で校務支援システムが導入されるようである。これはどんなシステムか。

答弁 導入予定のシステムは、校務処理の効率化、スマートスクール構想などに対応すべく、出席、保健、学籍、成績等の情報を一元管理する校務支援システムで、クラウドサービス型での利用を想定しており、市内全ての小・中学校に導入する。

質問 なかうみマラソン全国大会の廃止が検討されているが、規模縮小やデジタル化等による職員の負担軽減や運営主体を変えるなど新しい形で継続していくことは、可能と考えるが、いかがか。

答弁 今後、実行委員会の中で実施の有無をご審議していただきたいと考えている。



政進クラブ
三原 哲郎

大区画ほ場整備について

質問 これまで取り組まれた大区画ほ場整備の実績を伺う。

答弁 4地区が完了し、他2地区が本年度完了予定である。3地区が施工中で、現在施工中及び本年度完了予定の5地区が完了すると、受益面積が約311ha、総事業費は約110億円となる。

質問 ほ場整備に採択される基準を伺う。

答弁 農業競争力強化農地整備事業経営体育成型では、受益面積が20以上で、担い手の経営農地面積の割合が50%以上、農地中間管理機構関連農地整備事業では、受益面積が10ha以上で、収益性が20%以上向上、その農地の8割以上を担い手に集団化するなどである。

質問 ほ場整備後はどのような経営体なのか、また取り組んでいる栽培作物の状況を伺う。

答弁 農事組合法人を設立し、キャベツ、レタス、タマネギ、イチゴ、

アスバラガス等の栽培実績がある。

質問 環境整備についてどのような事例があり、どのような位置づけで行われたのか伺う。

答弁 ①ほ場整備事業にて特別減歩で道路整備・水路布設を実施する場合。②河川工事、道路改良計画がある用地を改めて別事業で実施する場合。③ほ場整備期間中に河川改修や道路改良が重なり別事業で実施する場合。④市道改良の拡幅部分を共同施工分として市が実施する場合などがある。位置づけは、市及び県の各部署、安来市土地改良区、各地区推進協議会の皆様と都度協議をし、進めている。

質問 今後のほ場整備全体に対する考え方を伺う。

答弁 安来市農業農村整備事業管理計画に基づき、県へ要望し事業の推進を図る。

米の消費拡大について

質問 米価下落で、赤字や収入減が見込まれる農業者に対しての支援策を伺う。

答弁 収入を補填するナラシ対策と、農業者の経営努力では避けられない収入減少を補償する農業経営収入保険制度などがある。市の独自支援として、農業経営収入保険の保険料等対象経費の半額を補助している。

12月定例会議

現地視察を行いました

◆総務企画委員会 (12/7)

安来市消防本部の「高機能消防指令システム」を視察。



◆文教福祉委員会 (12/8)

母里小学校、赤屋小学校のICT環境、とくにタブレット端末等を活用した授業の視察。



◆地域振興委員会 (12/9)

昨夏の豪雨災害により、土砂崩れ等被害のあった市内の各所を視察。



就任報告



令和3年11月8日の開会会議において澤田秀夫議員が監査委員に就任されました。

訂正のお知らせと

お詫び

令和3年11月20日発行号において記載内容に誤りがございました。つきましては左記のとおり訂正をさせていただきますとともに、お詫び申し上げます。

■訂正箇所

4頁

第6期安来市議会議員と会派の紹介

(誤) 清水 保夫

(正) 清水 保生

編集後記

新年あけましておめでとうございます。

いつも議会だよりをご覧いただきありがとうございます。

少し収まりかけていた新型コロナウイルスも、ここに至りて再拡大してきています。まだまだコロナとの生活は続きそうですが、一日も早いコロナの収束を心から願いながら、私たちは今までと同じく感染予防に取組んでいきたいと思っています。

今後も議会のようなすを市民の皆さま方に分かりやすくお伝えできる議会だよりとなるよう努めてまいります。ご一読いただけたら幸いです。本年もどうぞよろしく願っています。

広報広聴委員会

委員長 佐々木厚子



広報広聴委員会新メンバー

スマホアプリ「マチイロ」にやすぎ市議会だより配信中!

